2023 年度

事 業 計 画 書

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目　　次

はじめに 1
1.　環境認識 1
2.　基本方針 1
事業別基本方針 3
I.　競技会事業（公益目的事業 1） 5
【2023 年度の計画概要】 5
1.　競技会の主催（公益目的事業 1.1） 6
2.　運営環境の整備（公益目的事業 1.2） 8
3.　ディレクターの養成（公益目的事業 1.3） 8
4.　競技会事業管理（公益目的事業 1.9） 9
II.　普及事業（公益目的事業 2） 10
【2023 年度の計画概要】 10
1.　体験イベントの開催（公益目的事業 2.1） 11
2.　講習会の開催（公益目的事業 2.2） 11
3.　体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3） 12
4.　広報（公益目的事業 2.4） 13
5.　普及事業管理（公益目的事業 2.9） 14
III.　国際交流事業（公益目的事業 3） 15
【2023 年度の計画概要】 15
1.　国際競技会の主催（公益目的事業 3.1） 16
2.　国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2） 16
3.　国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3） 18
4.　国際交流事業管理（公益目的事業 3.9） 18
IV.　公益事業共通 19
【2023 年度の計画概要】 19
V.　収益事業等 20
【2023 年度の計画概要】 20
1.　公認（収益事業等 1） 20
2.　商品販売（収益事業等 2） 21
VI.　法人・管理部門 22
【2023 年度の計画概要】 22
1.　会員・会友 22
2.　組織運営 22
3.　常設委員会 22
①　企画委員会 22
②　センター協議委員会 22

はじめに

1. 環境認識

2022 年度も新型コロナウイルス感染症（以下、コロナという）のブリッジ界への影響は続いた。セクショナルのテーブル数は全体でコロナ前の 85%程度にまで回復したものの、ウィークリー、IMP はコロナ前の 50%程度であった。連盟主催競技会においてもコロナ以前の 60%程度の参加者数にとどまった。コロナによるブリッジ控えを継続している層が依然として見受けられた。

センターの経営についても同様で、コロナ以前に近いレベルにまで戻ったセンターも中にはあるが、まだまだ厳しいセンターが割合的には多いように感じられた。クラブも収支、参加者の確保に苦しんだ。そういった状況をうけて JCBL は 2022 年度もセンターへの経済的支援、クラブの登録料の半額免除を行った。感染防止対策に関しては、センター内でのプレイヤー間の感染を疑われるケースが発生し、対策の一層の強化に取り組んだ。

2022 年度はコロナも 2~3 年が経過し、コロナ前の水準に回復しつつある部分も見られた。2022 年度は第 4 回アジアカップがジャカルタで開催され、2019 年以来初めて国際競技大会へ日本代表チームを派遣した。連盟主催競技会および国内の地方リジョナルは概ね予定通り開催された。ユースの年末講習会はコロナ後初めて東京に集まって対面式で開催された。

さて 2023 年度は、マスク着用の緩和、コロナ 5 類への移行が予定されている。感染防止対策は概ね継続され、プレイヤーがテーブルを囲む風景にはあまり変化がないかもしれないが、ブリッジに外出しやすい状況になっていくことが考えられる。コロナによるブリッジ控えを余儀なくされた層がテーブルに戻ってこれる状況を期待したい。

2023 年度は日本代表およびユースの国際競技会が続く。9 月に中国でアジア競技大会が、6 月に香港で APBF 選手権が、8 月にモロッコで世界選手権が開催される。5 月に中国で APBF ユースが、7 月にオランダで世界ユースが開催される。2018 年アジア競技大会で逃したメダルを獲得し、ブリッジの知名度および地位の向上につなげていきたい。ようやく国際競技大会が対面式で行いやすい雰囲気になってきている。

首都圏の全 11 ブリッジセンターは 2023 年春の体験教室および入門講習会の開催を予定し、1 年前の 7 センターから大きく増えた。首都圏ブリッジセンターは IMP の参加者数の増加を目指し 2023 年夏季 IMP の参加料を割引くキャンペーンを実施する。JCBL も 2023 年度はコロナがかなり落ち着いたタイミングで、テーブルに戻ってくるプレイヤーを後押しするキャンペーンを行いたい。

2023 年度の JCBL 全体の収支の見込みは、コロナ前の水準と比べればまだまだ物足りない数字ではあるが、普及活動および国際交流事業をコロナ前の状況に近づけつつ、プレイヤー、センター、およびクラブがコロナ以前の活気をかなり取り戻す 1 年となることを目指す。

2. 基本方針

昨年度の事業計画では、コロナによる影響が甚大である状況を鑑み、①コロナ下における収支の確保、②コロナ下での適切なブリッジ活動の実施、③管理部門の経費効率化、④センターおよびクラブへの支援、⑤コロナ後の対応の 5 点を基本方針とした。今年度も引き続きそれらに取り組んでいくこととする。昨年度はコロナの感染状況が十分には回復せずコロナ後の活動を行うには至らなかったが、今年度はコロナ後のための具体的な施策を行う予定である。コロナの 3 年間の JCBL の収支の合計は黒字となる見込みで、センターおよびクラブへの経済的支援を行いつつ JCBL の体力を温存することができている。

① コロナ下における収支の確保：公認料は 2022 年度よりいくらか改善し、公認料全体でコロナ前の 85%程度まで戻ることを見込む。JCBL 主催競技会収入については昨年度なみの数字とした。助成金の活用は予定していない。日本代表やユース代表の海外派遣費用が増えること、普及事業の活性化があり、引き続き管理部門の経費を抑え、448 万円の赤字予算とする。

② コロナ下での適切なブリッジ活動の実施：本年度はマスク着用の緩和、コロナ 5 類への移行が予定されているものの、ブリッジテーブルにおいては当面は従来通りのマスク着用に関する方針および感染防止対策を継続し、安心してブリッジがプレイできる環境の維持に努めることとする。状況によっては段階的な緩和も視野に入れている。

③ 管理部門の経費効率化：昨年度は事務局職員の世代交代を進め、職員 5 名でアルバイトを配置しない体制を定着させた。今年度は現体制を継続し、効率的な業務の実施と職員の能力向上に努める。

④ センターおよびクラブへの支援：全国約 80 のセンターおよびクラブは、コロナにより経営が厳しい状況が続いている。センターに対しては 2020～2022 年度の 3 年連続で公認料の一部返還によるセンター支援を行ったが、今年度も状況に応じて適切な経済的支援を行っていく。クラブには 2023 年度も昨年度と同様にクラス 2~5 の年会費を半額にする支援を行うこととした。その他、センターおよびクラブの運営や継続に関する相談にはできる限りの協力を行う。

⑤ コロナ後の対応：コロナにより競技会および講習会への参加を控えている層もまだ見受けられ、体験教室や入門教室の参加者は以前より少ない。コロナ後のプレイヤーのブリッジへの復帰の後押し、新規プレイヤー獲得のための活動の支援を、コロナの推移を見ながら適切な時期に実行する。

事業別基本方針

I.　競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

感染防止対策に配慮は継続し、安心な競技会環境の提供を図る。主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。

【競技会の向上】

中長期的な課題として、よりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。

【JTOS】

競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）については競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。

【ディレクター育成】

ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。ナショナルディレクター養成プログラムに関しては実施を中止した。

【ブリッジの規則改正】

デュプリケートブリッジの規則の改正が日本では 2018 年 3 月 31 日から施行され、定着している。今年度はさらなる周知と適切な使用に努める。

II.　普及事業（公益目的事業 2）

【広報活動】

プレスリリースの送付先の整備、SNS プラットフォームの開設等を含め、アジア競技大会出場など普及に有用な話題を既存プレイヤーおよび潜在的な層に効果的な方法で発信できる体制を整える。

【入門講習会支援】

新聞に開催告知広告を掲載し、各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会の参加者の増加を図る。「優待券進呈キャンペーン」を継続し、口コミを活用した入門者獲得を推進する。

【子どもおよびユース】

橋之介くらぶでは、四谷・大船の 2 会場でブリッジの基礎を学ぶ機会を提供する。大学生を中心としたユースプレイヤーの育成を図るため、オンラインを活用してコストを抑えながら、講習会の開催、合宿の補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行う。

【大学でのブリッジ授業の開講】

大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジに理解のある若い世代の確保とブリッジの知名度の向上を図る。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学・京都大学でそれぞれ実施する。

【京阪神の普及活動】

カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる。大学生を中心とした若い世代に対しては競技会へ積極的に誘致してレベルアップを図る。

【その他各地域の普及活動】

福岡、札幌、仙台及びその他の全国各地域の普及活動に対して、広告宣伝への協力、指導ノウハウの共有を行い、体験教室の開催を支援していく。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【第 19 回アジア競技大会】

第 19 回アジア競技大会は 2023 年 9 月に中国の杭州で開催され、男子、混合の 2 つの代表チームを派遣する。2018 年の前回大会では惜しくも逃したメダルの獲得、および 2026 年愛知大会での競技採用を目指す。

【第 53 回 APBF 選手権】

第 53 回 APBF 選手権は 2023 年 6 月に香港で開催される。オープン、ウィメン、ミックス、シニアの 4 つの代表チームを派遣し、8 月にモロッコで開催される世界選手権の出場権の獲得を目指す。

【第 24 回 APBF ユース選手権】

第 24 回 APBF ユース選手権は 2023 年 5 月に中国で開催される。U26 および U21 の 2 つの代表チームを派遣し、7 月にオランダで開催される世界ユース選手権の出場権の獲得を目指す

IV. 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。

② 商品販売事業（収益事業 2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の見直し及び効率化を図る。

V. 法人・管理部門

- 「新入会無料キャンペーン」を継続する。
- 各センター・クラブとの連携の強化、事務局業務の改善とマニュアル化を推進する。

I.　競技会事業（公益目的事業 1）

【2023 年度の計画概要】

(1)　計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	25,190,000	27,920,000	-2,730,000	
経常費用	54,020,000	54,920,000	-900,000	
経常増減	-28,830,000	-27,000,000	-1,830,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
1.1 競技会の主催	経常収益	25,190,000	27,920,000	-2,730,000	
	経常費用	36,090,000	36,490,000	-400,000	
	経常増減	-10,900,000	-8,570,000	-2,330,000	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,720,000	1,720,000	0	
	経常増減	-1,720,000	-1,720,000	0	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	100,000	100,000	0	
	経常増減	-100,000	-100,000	0	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	16,110,000	16,610,000	-500,000	
	経常増減	-16,110,000	-16,610,000	500,000	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- リジョナル競技会については、センター移管した 5 競技会が高い運営レベルを維持されるよう支援・監督する。
- 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者参加料割引を継続する。

② スリースターシリーズ

- スリースターシリーズは 2023 年度も開催を継続する。スリースターシリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを JCBL 主催ナショナル競技会に招待する。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	25,190,000	27,920,000	-2,730,000	
経常費用	36,090,000	36,490,000	-400,000	
経常増減	-10,900,000	-8,570,000	-2,330,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
主催競技会	縮小	経常収益	25,190,000	27,920,000	-2,730,000	2020 年度予算の約70%を見込む
		経常費用	36,090,000	36,490,000	-400,000	
		経常増減	-10,900,000	-8,570,000	-2,330,000	
ブリッジフェスティバル	休止	経常収益	0	0	0	ブリッジフェスティバル無期限中止
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日　程	開催日数	場所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
全日本ウィメンズチーム選手権杯	4 月 15、16 日	2 日	玉川髙島屋 SC	40
全日本地域対抗戦選手権（関東予選）	5 月 13、14、20、21 日	4 日	四谷 BC	30
藤山杯	7 月 2、3 日	2 日	四谷 BC	30
全日本地域対抗戦選手権（決勝）	7 月 29 日 30 日	2 日	アクトシティ浜松	32
外務大臣杯（予選・決勝）	8 月 12、13 日	2 日	四谷 BC	30
高松宮記念杯	9 月 16、17、23、24 日	4 日	四谷 BC / 五反田 BS	70
全日本女子ペア選手権（予選・決勝）	9 月 23、24 日	2 日	四谷 BC	24
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	10 月 28 日、29 日	2 日	四谷 BC	30
ブルーリボン杯	12 月 24 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	70
レッドリボン杯	12 月 24 日	1 日	高田馬場 BC/大阪 BC	20
朝日新聞社杯	1 月 6、7、8 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	120
2) 日本リーグ				
1 部	前期：4 月・6 月、後期：11 月・1 月	各 4 日	高田馬場 BC	16
2 部		各 4 日	高田馬場 BC	24
3) リジョナル競技会				
柳谷杯	4 月 1、2 日	2 日	四谷 BC/高田馬場 BC	60
サントリー杯	4 月 30 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	60
井上杯（予選・決勝）	5 月 27、28 日	2 日	四谷 BC	16
井上歌子杯	5 月 28 日	1 日	四谷 BC	20
渡辺杯	3 月 16、17 日	2 日	四谷 BC	40
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				12

2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行う。
- スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用方法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
- 競技会速報システムを改良し使用を推進する。

② 競技会運営環境の整備と維持

- 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。

③ 競技委員会管轄事項

- 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。

④ ルール委員会管轄事項

- 「デュプリケートブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,720,000	1,720,000	0	
経常増減	-1,720,000	-1,720,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,470,000	1,470,000	0	
		経常増減	-1,470,000	-1,470,000	0	
競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	230,000	230,000	0	
		経常増減	-230,000	-230,000	0	
ルール委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① ディレクター講習会

- 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で 1 回、地方で 1 回開催する。

- ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各 1 回開催する。

(2) 収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	0	0	0	
経常費用	100,000	100,000	0	
経常増減	-100,000	-100,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
ディレクター講習会	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	100,000	100,000	0	
		経常増減	-100,000	-100,000	0	
ナショナルディレクター養成プログラム	休止	経常収益	0	0	0	ナショナルディレクター養成プログラムは取りやめ
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	

4.　競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1)　計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	0	0	0	
経常費用	16,110,000	16,610,000	-500,000	
経常増減	-16,110,000	-16,610,000	500,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
管理費 競技会事業部	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	16,110,000	16,610,000	-500,000	
		経常増減	-16,110,000	-16,610,000	500,000	

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【2023 年度の計画概要】

(1) 計画概要

今年度はコロナの影響が続くため、普及事業のトータル費用を抑え、コロナ下での必要性が高い事業に絞って行うこととする。ブリッジセンター、ブリッジクラブ、カルチャーセンター、および個人の体験教室、入門講習会などへの助成は例年通りの基準で助成を行う。大学授業の実施については、6 大学全ての実施を予定しているが、昨年度に引き続き半期の実施を基本とし費用を例年の半分程度に抑える。体験ブースの出展についてはコロナの状況を鑑み、出展回数を大幅に絞る。ユース育成に関しては、今年度は対面式による講習会を実施する。橋之介くらぶは大船、四谷の 2 センターで継続する。プレスリリースの送付先の整備、SNS プラットフォームの開設等を含め、アジア競技大会出場など普及に有用な話題を既存プレイヤーおよび潜在的な層に効果的な方法で発信できる体制を整える。

(2) 収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	50,000	50,000	0	
経常費用	25,790,000	24,380,000	1,410,000	
経常増減	-25,740,000	-24,330,000	-1,410,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
2.1 体験イベントの開催	経常収益	50,000	50,000	0	
	経常費用	410,000	410,000	0	
	経常増減	-360,000	-360,000	0	
2.2 講習会等の開催	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,030,000	620,000	410,000	
	経常増減	-1,030,000	-620,000	-410,000	
2.3 体験教室・講習会等の実施支援	経常収益	0	0	0	
	経常費用	7,180,000	7,180,000	0	
	経常増減	-7,180,000	-7,180,000	0	
2.4 広報	経常収益	0	0	0	
	経常費用	3,870,000	3,870,000	0	
	経常増減	-3,870,000	-3,870,000	0	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	13,300,000	12,300,000	1,000,000	
	経常増減	-13,300,000	-12,300,000	-1,000,000	

【事業別計画】

1.　体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベントを実施する。

①　未経験者用イベント

・出展予定イベントは、国民文化祭、霞が関子ども見学デーとする。

②　子ども向け体験イベント（橋之介くらぶイベント）

・体験教室／入門講習会／練習会／競技会を開催し、20 名の新入会を目標とする。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	50,000	50,000	0	
経常費用	410,000	410,000	0	
経常増減	-360,000	-360,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	休止	経常収益	0	0	0	石川
		経常費用	140,000	140,000	0	
		経常増減	-140,000	-140,000	0	
文化・教育関連イベント出展 ねんりんピック	前年度並み	経常収益	0	0	0	見送り
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
文化・教育関連イベント出展 その他のイベント	縮小	経常収益	0	0	0	霞が関子ども見学デー
		経常費用	50,000	50,000	0	
		経常増減	-50,000	-50,000	0	
一般向け体験イベント フェスタ体験教室	休止	経常収益	0	0	0	ブリッジフェスティバル非開催
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
一般向け体験イベント 初心者大会開催	休止	経常収益	0	0	0	地方招待は見送り
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
子ども向け体験イベント　橋之介くらぶ運営	縮小	経常収益	50,000	50,000	0	四谷、大船で開催
		経常費用	220,000	220,000	0	
		経常増減	-150,000	-150,000	0	

2.　講習会の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

①　ユース向け講習会

・「ユース育成プロジェクト」の一環としてユース向け講習会をオンラインで開催し、

技術向上支援を行う。ユース代表の選考方法を効率化し費用を削減する。

(2) 収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,030,000	620,000	410,000	
経常増減	-1,030,000	-620,000	-410,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
ブリッジインストラクター講習	休止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
ユース向け講習会 ユース育成 PJ	縮小	経常収益	0	0	0	対面式講習会
		経常費用	1,030,000	620,000	410,000	
		経常増減	-1,030,000	-620,000	-410,000	

3.　体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

(1) 計画概要

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

① 一般支援

・各種体験教室・講習会等は、規定の範囲内で講師及びアシスタント料や交通費等を助成する。体験教室は要請があれば用具・教材の提供や連盟職員の派遣を行うことがある。入門講習会は原則として 1 期 12 回までの助成とする。

・体験イベント支援や海外クラブ支援は、原則として申請に応じて助成する。

・地方クラブ支援は、地方クラブ・センターのそれぞれの課題に応じた支援を行う。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

・東京大学、早稲田大学、青山学院大学、明治大学、大阪大学、京都大学の 6 大学で授業を開講する。大学と相談の上、必要に応じてオンラインによる授業を実施する。

③ 学校・学生支援

・学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立上げ、用具提供）、学生クラブによる他大学の友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）を行う。

・学生リーグ主催の学生選手権への参加費用を助成する。

(2) 収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	0	0	0	
経常費用	7,180,000	7,180,000	0	
経常増減	-7,180,000	-7,180,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
普及活動支援 助成規定･海外ク	前年度並み	経常収益	0	0	0	コロナの影響で申請件数減少が続く
		経常費用	4,500,000	4,500,000	0	

ラブ支援		経常増減	4,500,000	-4,500,000	0	
普及活動支援 地方活性化支援	休止	経常収益	0	0	0	職員の地方出張は見送り
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
学校講座支援 大学講座 東京大学	縮小	経常収益	0	0	0	講師:浅井潔
		経常費用	320,000	320,000	0	
		経常増減	-320,000	-320,000	0	
学校講座支援 大学講座 早稲田大学	縮小	経常収益	0	0	0	講師:並木亮
		経常費用	700,000	700,000	0	
		経常増減	-700,000	-700,000	0	
学校講座支援 大学講座 大阪大学	縮小	経常収益	0	0	0	講師:大橋正幸
		経常費用	380,000	380,000	0	
		経常増減	-380,000	-380,000	0	
学校講座支援 大学講座 青山学院大学	縮小	経常収益	0	0	0	講師:島村京子
		経常費用	440,000	440,000	0	
		経常増減	-440,000	-440,000	0	
学校講座支援 大学講座 明治大学	縮小	経常収益	0	0	0	講師:清水映樹
		経常費用	290,000	290,000	0	
		経常増減	-290,000	-290,000	0	
学校講座支援 大学講座 京都大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:小杉賢一朗
		経常費用	260,000	260,000	0	
		経常増減	-260,000	-260,000	0	
学校・学生の普及活動支援	縮小	経常収益	0	0	0	学生合宿への支援
		経常費用	290,000	290,000	0	
		経常増減	-290,000	-290,000	0	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。

① 広報宣伝活動

・体験教室、入門講習会開催告知のための首都圏一斉広告を年 2 回実施する。

・地方の各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会開催告知のための広告を適宜実施する。

・ブリッジの紹介、ルール、初歩の知識を扱ったブリッジ紹介動画を制作し、YouTube やホームページ等で公開する。

・メディア広告、地域イベント参加やブリッジ図書寄贈などの PR 活動を行う。

・「普及通信」ウェブ版を隔月更新する。

・体験型イベントに出展し知名度の向上とセンター・クラブの入門講習会の支援を図る。

② ウェブサイト運営

・入門用のコンテンツを整理し、わかりやすく見やすい構成に変更する。

③ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配付

・広報ツールやパンフレットの企画・開発を行う。プロモーショングッズを必要に応じて製作または購入する。

(2) 収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	0	0	0	
経常費用	3,870,000	3,870,000	0	
経常増減	-3,870,000	-3,870,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
広報宣伝活動	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,500,000	3,500,000	0	
		経常増減	-3,500,000	-3,500,000	0	
ウェブサイト JCBL ウェブサイトの運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	270,000	270,000	0	
		経常増減	-270,000	-270,000	0	
広報ツールの作成・配付	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	100,000	100,000	0	
		経常増減	-100,000	-100,000	0	

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3 月）
- 普及事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	0	0	0	
経常費用	13,300,000	12,300,000	1,000,000	
経常増減	-13,300,000	-12,300,000	-1,000,000	

(3) 個別事業一覧表

管理費 普及事業部	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	13,300,000	12,300,000	1,000,000	
		経常増減	-13,300,000	-12,300,000	-1,000,000	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【2023 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を行う。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	1,850,000	1,850,000	0	
経常費用	22,210,000	12,300,000	9,910,000	
経常増減	-20,360,000	-10,450,000	-9,910,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	110,000	110,000	0	
	経常費用	0	0	0	
	経常増減	110,000	110,000	0	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	1,740,000	1,740,000	0	
	経常費用	17,310,000	7,400,000	9,910,000	
	経常増減	-15,570,000	-5,660,000	-9,910,000	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,030,000	1,030,000	0	
	経常増減	-1,030,000	-1,030,000	0	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	3,870,000	3,870,000	0	
	経常増減	-3,870,000	-3,870,000	0	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

国際大会開催準備金については 2023 年度の積み増しは行わない。

(2)収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	110,000	110,000	0	
経常費用	0	0	0	
経常増減	110,000	110,000	0	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
APBF 選手権/コングレス	前年度並み	経常収益	110,000	110,000	0	国際大会開催準備金は継続
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	110,000	110,000	0	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、2024 年度に開催される第 16 回ワールドブリッジゲームズのオープン、ウィメン、ミックス、シニアの各チームをそれぞれ選抜する。遠隔地からの参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

- 第 19 回アジア競技大会

  第 19 回アジア競技大会は 9 月に中国の杭州で開催される。男子、混合の各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。
- 第 53 回 APBF 選手権

  第 53 回 APBF 選手権は 6 月に香港で開催される。オープン、レディース、ミックス、シニアの各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。
- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

- 第 24 回 APBF ユース選手権

  第 24 回 APBF ユース選手権は 5 月に中国の寧波で開催される。ジュニア、ヤングスター（グレードⅠ）の選手、キャプテンの派遣を行う。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	1,740,000	1,740,000	0	
経常費用	17,310,000	7,400,000	9,910,000	
経常増減	-15,570,000	-5,660,000	-9,910,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
日本代表選抜	縮小	経常収益	240,000	240,000	0	
		経常費用	1,000,000	1,000,000	0	
		経常増減	-760,000	-760,000	0	
国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	実施	経常収益	1,500,000	1,500,000	0	APBF 開催年度
		経常費用	3,870,000	3,870,000	0	
		経常増減	-2,370,000	-2,370,000	0	
国際競技会派遣 アジア競技大会／世界選手権	縮小	経常収益	0	0	0	アジア競技大会開催年度
		経常費用	5,500,000	500,000	5,000,000	
		経常増減	-5,500,000	-500,000	-5,000,000	
国際競技会派遣 その他	休止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	680,000	680,000	0	
		経常増減	-680,000	-680,000	0	
ユース育成プログラム　APBF／コングレス派遣	縮小	経常収益	0	0	0	ジュニアおよびヤングスターを派遣
		経常費用	1,260,000	1,260,000	0	
		経常増減	-1,260,000	-1,260,000	0	
ユース育成プログラム 世界選手権派遣	縮小	経常収益	0	0	0	APBF で代表権を争う
		経常費用	3,220,000	90,000	3,130,000	
		経常増減	-3,220,000	-90,000	-3,130,000	
ユース育成プログラム　世界選手権/大学選手権	休止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,780,000	0	1,780,000	
		経常増減	-1,780,000	0	-1,780,000	
ユース育成プログラム　その他国際競技会参加支援	休止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

① 世界同時大会への参加

- 2023 年に開催される世界同時大会開催に参加協力する。

② 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
- APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。

③ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備 考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,030,000	1,030,000	0	
経常増減	-1,030,000	-1,030,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備 考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,030,000	1,030,000	0	
		経常増減	-1,030,000	-1,030,000	0	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備 考
経常収益	0	0	0	
経常費用	3,870,000	3,870,000	0	
経常増減	-3,870,000	-3,870,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備 考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,870,000	3,870,000	0	
		経常増減	-3,870,000	-3,870,000	0	

IV. 公益事業共通

【2023 年度の計画概要】

(1) 計画概要

基本財産運用益及び会費収入の 50%を公益事業及び法人会計にそれぞれ繰り入れ、公益事業活動の原資とする。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	12,100,000	13,500,000	-1,400,000	
経常費用	0	0	0	
経常増減	12,100,000	13,500,000	-1,400,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
公益事業共通	縮小	経常収益	12,100,000	13,500,000	-1,400,000	シニア移行とコロナによる会員更新の伸び悩み
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	12,100,000	13,500,000	-1,400,000	

V. 収益事業等

【2023 年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、商品販売事業は事務局が担当する。

(2)収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	106,000,000	89,600,000	16,400,000	
経常費用	21,710,000	23,010,000	-1,300,000	
経常増減	84,290,000	68,590,000	17,700,000	

(3)事業別総括表

事業名	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
1 公認	経常収益	102,000,000	83,500,000	18,500,000	
	経常費用	16,060,000	16,160,000	-100,000	
	経常増減	85,940,000	67,340,000	18,600,000	
2 商品販売	経常収益	4,000,000	6,100,000	-2,100,000	実績値を反映、コロナにより売上大幅減
	経常費用	5,650,000	6,850,000	-1,200,000	
	経常増減	-1,650,000	-750,000	-900,000	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸規程に基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議委員会」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率は参加料の 22%を継続する。ブリッジセンターについては 2022 年度の普及活動実施状況により、2023 年度の公認料率を決定する。
- ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	102,000,000	83,500,000	18,500,000	
経常費用	16,060,000	16,160,000	-100,000	
経常増減	85,940,000	67,340,000	18,600,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
競技会の公認	縮小	経常収益	102,000,000	83,500,000	18,500,000	公認料収入は 2020 年度予算の約 70%と見込む
		経常費用	15,470,000	15,570,000	-100,000	
		経常増減	86,530,000	67,930,000	18,600,000	
コントラクトブリッジクラブの公認と育成	縮小	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリアフリー工事助成 地方リジョナル支援
		経常費用	590,000	590,000	0	
		経常増減	-590,000	-590,000	0	

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2) 収支総括

	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	4,000,000	6,100,000	-2,100,000	実績値を反映、コロナにより売上大幅減
経常費用	5,650,000	6,850,000	-1,200,000	
経常増減	-1,650,000	-750,000	-900,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
商品販売事業	縮小	経常収益	4,000,000	6,100,000	-2,100,000	
		経常費用	5,650,000	6,850,000	-1,200,000	
		経常増減	-1,650,000	-750,000	-900,000	

VI. 法人・管理部門

【2023 年度の計画概要】

(1) 計画概要

1.会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。今後会報発行の頻度を削減することが可能か検討する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：6,800 部

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,000 部

② JCBL ライブラリーの運営

- 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

③ キャンペーン

- 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン　前年度に引き続き新規入会者の会費を 2024 年 3 月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者に QUO カードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待　初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。各ブリッジセンターで開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2.組織運営

- 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

3.常設委員会

① 企画委員会

- 企画委員会は、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10 年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革を使命とする。
- 今年度はコロナの影響下における収支の確保、ブリッジセンターおよびブリッジクラブの継続のための支援を最大のテーマとする。、コロナの感染防止対策を徹底する。その他連盟の中長期的な財政基盤の充実と、現在のブリッジの競技環境の維持に取り組む。連盟主催・公認競技会の参加者を増やす方策を中心にすえて、連盟の事業運営の安定化をめざす。
- JTOS の適切な運用に留意する。

② センター協議委員会

- センター協議委員会は、競技会と普及活動の拠点であるブリッジセンターと当連盟との協力関係の構築を使命とする。
- コロナに関する様々な課題にブリッジセンターと連携して取り組む。コロナ下での適切な競技会の開催、感染防止対策、ブリッジセンターの経営安定化について情報交換を行い、必要な施策を行う。

- 過去数年間で実現した連盟とブリッジセンターとの新しい会計基準の導入、対応の難しいプレイヤーに関するガイドラインの策定、体験教室・入門教室などに関する助成制度の見直しや追加などについて、今年度も引き続き見直しと拡充をはかる。
- 競技会参加者数の維持および新規参加者の増加に向けて、ブリッジセンターとの協議を通じて、さまざまな方策を提案できるよう努める。

(2) 収支総括	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
経常収益	12,440,000	13,840,000	-1,400,000	
経常費用	38,380,000	38,380,000	0	
経常増減	-25,940,000	-24,540,000	-1,400,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2023 予算	2022 予算	前年差	備　考
会員・会友 刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,370,000	3,370,000	0	
		経常増減	-3,370,000	-3,370,000	0	
会員・会友 JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	5,320,000	5,320,000	0	
		経常増減	-5,320,000	-5,320,000	0	
会員・会友 キャンペーン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	180,000	180,000	0	
		経常増減	-180,000	-180,000	0	
組織運営 管理部	縮小	経常収益	12,440,000	13,840,000	-1,400,000	
		経常費用	29,510,000	29,510,000	0	
		経常増減	-17,070,000	-15,670,000	-1,400,000	